

特集

Special Article

1

## 写真で見る

## 第64回 ICANN

## 神戸会議報告

～19年ぶりの  
日本開催を終えて～

2019年3月9日(土)から14日(木)にかけて、第64回ICANN (The Internet Corporation for Assigned Names and Numbers)会議(ICANN64)が兵庫県神戸市の神戸ポートピアホテルおよび神戸国際会議場で開催されました。2000年7月に開催された第6回ICANN横浜会議以来、実に19年ぶりの日本開催です。JPNICは日本開催におけるローカルホスト委員会の委員であり、またそのローカルホスト委員会の事務局としても今回の開催の運営を支えました。本稿では、JPNIC内でこれを担当した山崎信の視点からの総括に加え、ローカルホスト委員会の委員長であった村井純氏の寄稿と合わせ、このICANN64を振り返るものです。なお、ICANN64での議論の動向については、P.22からの「インターネット動向紹介:ドメイン名・ガバナンス」も併せてご覧ください。

## 会場準備

会議自体の主催はICANNですが、現地の組織が実施した方が効率的な事柄については、ローカルホストと呼ばれる現地運営組織が担当することになっており、今回は日本国内でローカルホスト委員会(LHC) (<https://www.icann64.jp/>)を組成して対応しました。このローカルホストの責務の一つには、ネットワーク接続性の提供がありますが、会議前週早々には接続が完了し、無線LAN環境の構築や各会議室の設営にスムーズに繋がったようです。ICANN64で利用した会議室の多くは遠隔参加を可能にするため、映像・音響設備およびネットワークを完備しており、設営も運用もかなり複雑そうに見えましたが、会期中は問題なく提供されていたようです。

ちなみにICANN発表の報告書によれば、ICANNが持ち込んださまざまな機材の総重量は10.8(メートル/メトリック)トンだったそうです。同報告書には、機材の総重量は神戸ビーフの元となる但馬牛(たじまうし)換算17頭という面白い記述もあります。機材に加え、神戸入りしたスタッフ数も166名と大変な人数でした。筆者が神戸入りしたのは会議初日の前日3月8日(金)でしたが、その時点で会場の設営はほぼ完了しており、最終確認をしている光景があちこちで見られました。

## 参加者数

ICANNが公式発表した受付ベースでの参加登録者の最終的な数字は、全体で1,759名、日本を含むアジア・オーストラリア・太平洋からは721名で、そのうち日本国内からの参加者は371名となっています。また、初参加者は614名でした。過去の同時期に開催されたICANN会議では、参加者数の概数が1,500名から2,200名の間になっており、今回も同程度の参加規模となりました。

## ネットワーク

ネットワークスポンサーとして、NTTコミュニケーションズ株式会社、KDDI株式会社、西日本電信電話株式会社(NTT西日本)の3社にご協力いただき、会期中特に問題なくネットワークを提供することができました。インターネット回線は、冗長化された1Gbpsの広域イーサネットサービスで、ICANNが要求するISP一つあたりの最低帯域幅(400Mbps)を上回り、ICANNのネットワーク担当によれば十分余裕があったようです。隣り合ってはいますが、会場が神戸ポートピアホテルと神戸国際会議場の2ヶ所だったため、これら2会場間の接続の増強をICANNが希望したところ、NTTビジネスソリューションズ株式会社(NTT西日本の関連会社)に通常の帯域幅をはるかに上回る回線を、複数本ご提供いただくことができました。この場を借りまして、同社に厚く御礼申し上げます。

ICANN事務局の執務スペースには、ネットワークオペレーションセンター(NOC)があり、筆者は所用で事務局を訪問した際に少し見せてもらうことができたのですが、会場内のネットワークの状況が一目で分かるようになっていました。NOCについては、ICANNが公開しているレポートで触られています<sup>\*2</sup>。同レポートでは、無線LANアクセスポイント数は73、ピーク時の会場における無線LAN接続数は1,877、IPv6の全トラフィックに占める割合は24%といった数字も紹介されています。

## オープニングセレモニー

3月11日(月)のオープニングセレモニーは、ICANNアジア太平洋地域の総責任者であるJia-Rong Low(ジアロン・ロウ)氏の挨拶から始まり、ついでICANN理事長Cherine Chalaby(シュリーン・シャラビ)氏、ICANN事務総長Göran Marby(ヨーラン・マービー)氏の挨拶と続きました。次いで、日本側より佐藤ゆかり総務副大臣、久元喜造神戸市長、村井純ローカルホスト委員長の挨拶と続きました。

Jia-Rong氏からは、参加者、登壇者、グローバルなICANNコミュニティ、およびローカルホスト委員会への謝辞があり、ICANN64は19年ぶりの日本開催であること、アジア太平洋地域にICANNオフィスが設置されてから6年経つことなどが紹介された後、Chalaby氏にバトンタッチされました。



ジアロン・ロウ氏



ICANN理事長  
シュリーン・シャラビ氏

Chalaby氏は、福澤諭吉の「学問のすすめ」に記されている名言「進まざる者は必ず退き、退かざる者は必ず進む。」を引用して、インターネットの発展と進化のためにICANNが前進しなければならないことを訴えました。次に、サイバー主権の興隆、セキュリティ脅威の指数関数的な増大、インターネット

分断の脅威増大などの外部状況の中で、戦略・運営・財務計画の策定状況を共有し、計画実行のためには我々全員のコミットメントが重要と訴えました。

Marby氏は、インターネット利用者が40億人まで増えたこと、人々の暮らしを大きく変えたこと、インターネットガバナンスはマルチステークホルダーモデルによる稀有な成功例であることを指摘しました。また、ICANNは技術的な組織であり、政治には踏み込まないと述べつつ、インターネットを利用しようとする人々を妨げないよう、世界中の国々の立法府に対して啓発が必要とし、現在進行中の政府や国際機関へ働きかけるための活動について触れました。



ICANN事務総長  
ヨーラン・マービー氏

佐藤総務副大臣からは、データが経済を前進させる推進力となり、それにより社会的な課題を解決でき、人々を幸せにし、生活をより便利にできるという見通しが語られました。次いで、一つのインターネットの

維持が、自由市場や表現の自由を担保し、イノベーションの原動力となるべきであり、そのためにはビジョンの共有と、ネットワーク中立性に関する規則のグローバルな調和が必要だと述べられました。



佐藤ゆかり総務副大臣



久元喜造神戸市長

久元神戸市長からは、1994年に国内の地方自治体では最も早く、地域型JPDメイン名である「city.kobe.jp」を登録しWebサイトを公開したこと、翌1995年に発生した阪神・淡路大震災で甚大な被害を受けたものの、市のWebサイトは無事で、被害や援助の状況を市民に伝えることができ、かつ世界中からの援助の申し出と励ましのメッセージであふれたことが語られました。神戸市はこれにより、信頼できる情報ネットワークの重要性を認識し、IoT技術を使った強力な通信ネットワークを構築したとのこと。震災からの復興を成し遂げたので、安全な街をつくるという次の段階に向かっていくことでした。

その後、村井委員長からも挨拶がありましたが、それについては本稿の最後に本人からの寄稿がありますので、それに譲ります。

次に、NROチェア/アフリカ地域の地域インターネットレジストリ(RIR)であるAFRINIC CEOのAlan Barrett(アラン・バレット)氏より、ともすれば影が薄くなりがちな、ICANN内の番号資源に関するグループである、ASO/NROについて紹介がありました。

スピーチがすべて終わった後には、和太鼓グループ「打打打団 天鼓(だだだんてんこ)(現:レビュー HTB天鼓)」による演奏が行われました。世界中で1,200回も公演しているグループで、古典的にも見える楽器を使いつつも現代的なエッセンスも取り入れ、エネルギーレベルの高い演奏がなされました。



打打打団 天鼓による演奏

最後にJia-Rong氏より、当日は東日本大震災が発生した3月11日に当たることから、発生時刻である14時46分に参加者全員で黙祷を行うための時間を取りたいこと、および当日夕方から開催するガライベントについてアナウンスがありました。

## ガーライベント

3月11日(月)の19時より、総務省とローカルホスト委員会との共催で、ガーライベントをホテルオークラ神戸にて開催しました。ICANN会議の主なプログラムが開催された、神戸ポートピアホテルからは少し離れているため、参加者は貸切バスで移動しました。開催前にはハワイにて、日本雅楽協会による雅楽の演奏で参加者を迎えました。また、ローカルホスト委員会のメンバーでもあるGMOインターネット株式会社が招聘した2名の舞妓さんが会場に到着すると、早速参加者からひっきりなしに記念写真の撮影をお願いされていました。



雅楽で参加者をお出迎えました



舞妓さんとの記念撮影

通常ガーライベントでは酒食が用意され参加者間で会話するだけで、スピーチなどのプログラム進行はありません。しかし、今回は、スピーチおよび鏡開きを実施することになり、総務省、およびローカルホスト委員会を代表して、次の4名の方より挨拶が行われました。

- ・村井 純 LHC 委員長
- ・総務省国際戦略局 局長 吉田 真人 氏
- ・GMOインターネット株式会社 専務取締役 伊藤 正 氏
- ・株式会社日本レジストリサービス 取締役 堀田 博文 氏

その後、ICANNよりChalaby氏とMarby氏も加わって鏡開きを行い、次いで村井LHC委員長が乾杯の音頭を取りました。他にガーラでは次のようなコーナーを設けました。



鏡割りの様子

### 利き酒コーナー

神戸を代表する灘五郷(西郷(沢の鶴)、御影郷(菊正宗)、魚崎郷(櫻正宗)、西宮郷(白鹿および白鷹)、今津郷(大関))の日本酒および試飲用の枡を用意しました。

### 縁日コーナー

屋台を設置し、提灯と飴細工を提供しました。

### 野点(のだて)エリア

野点とは屋外の茶会のことですが、それを模したしつらえを会場のど真ん中に設置しました。当初は写真撮影スポットとする意図でしたが、参加者の皆さんは飲食やお喋りに使うなど、思い思いの使い方をしていました。

会場は、下見の際には相当広いと感じましたが、参加者(約900名)でいっぱいになり、適度に混んで賑わっていたという印象です。通常のガーライベントと大きく異なる進行がうまくいくか、参加者のおしゃべりにかき消されるのではないかと懸念もありましたが、まずオープニングVTRを上映して参加者を前方に注目させ、登壇者をスクリーンに投影、プロの司会者の登壇などの工夫により、無事乗り切ることができました。この場を借りて、設営および運営に関わってくださった多数の皆さまに御礼申し上げます。

## ガーラ会場の様子



## ブース

LHC自身のブースでは、留学生ボランティアによるさまざまな案内に加え、神戸コンベンションビューロー(CB)から観光案内ボランティアに来ていただき、神戸の紹介などをしていただきました。留学生の皆さんは、いずれも日本語と英語が堪能で、頼もしい方々ばかりでした。観光案内ボランティアの皆さんはシニア世代の方々でしたが、元気あふれる方々ばかりでした。神戸を、そして日本を印象付けてくれたのではないかと思います。

さらに、神戸CBのご厚意により、3月9日(土)および10日(日)の2日間、関西国際空港ターミナル1到着エリアにブースを設置して、来場者の便宜を図っていただきました。空港利用の参加者からは、非常に好評だったようです。

また、LHC自体のブースの他に独自ブースを出展した委員もいくつかあったのですが、各ブースさまざまな工夫を凝らしていました。本物の桜の木を飾り抹茶を点っていたブースなどもあり、国外の参加者の方からとても興味を引いていたようです。

### ローカルホスト委員会のブース



### 抹茶がサービスされていました



## 各社プロモーション

会場内のあちこちの壁面、エスカレーターなどには、ローカルホスト委員でもあるスポンサー2社のロゴが掲示され、その前で記念撮影する参加者などもたびたび見受けられました。コーヒータイムが午前と午後にあるのですが、その際には両社のロゴ入り紙コップが使われ、こちらも参加者に強い印象を与えたのではないかと思います。他にもTシャツ、ストラップ、ボトルウォーター、ウォーターサーバーへの広告が提供されるなど、これまでのICANN会議に比べると、LHCメンバー各社のおかげで賑やかになったICANN64だったと言えると思います。さらに、株式会社インターネットイニシアティブ(IIJ)からは無料SIMカードが提供され、国外からの会議参加者に大好評でした。

### スポンサーのロゴ入りのウォーターサーバー



### トラベルSIM



## おわりに

JPNICはLHCの一員として、かつLHC事務局として、ICANN64を支えました。LHC会員各組織は費用を分担すると同時に、会議の成功に向けて各委員さまざまな協力を行いました。LHCだけでそれが実現できたわけではありません。イベント業務全般を担当いただいた各社、サポートいただいた総務省、神戸CB、神戸ポートピアホテル、中内力コンベンション振興財団のご支援なしにはLHCの責務を果たすことは難しく、ICANN64の成功はなかったと思います。

ICANN64の参加者から聞こえてくるフィードバックは、ポジティブなものばかりで、例えばアジアでの開催は日本に固定するのに1票、とネットに書き込んだ人もいたくらいです。19年ぶりの日本開催として、十二分におもてなしができたのではないかと思います。

個別にすべてのお名前や組織名を挙げていくことまではできませんが、ここでご紹介した以外にも多くの方々のご支援により、無事ICANN64神戸会議を終えることができました。この場を借りてお礼申し上げます。

なお、本稿でご紹介した内容のほかに、JPNICブログでも写真を交えてICANN64の様子をご紹介していますので、こちらもぜひご覧ください。

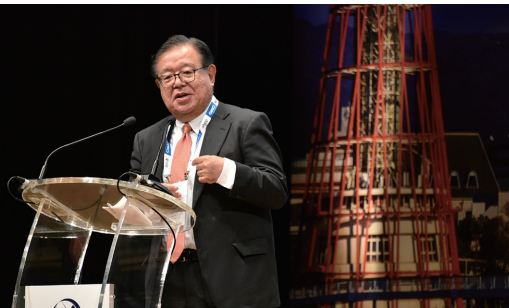
ICANN神戸会議を振り返って

<https://blog.nic.ad.jp/blog/icann64review/>



(JPNIC インターネット推進部 山崎信)

# 「日本が持つベストプラクティスを体現した ICANN 神戸会議」



ICANN64 ローカルホスト委員会委員長／慶應義塾大学教授 村井純

今回の神戸会議は、神戸ポートピアホテルと神戸国際会議場 (KICC) が会場でしたが、KICC は1992年にINET'92を開催した場所でもあります。INET'92はISOC 設立後初のイベントであると同時に、これからは商用インターネットが始まり時代が大きく変わるのだと参加者に認識させた、いわば日本のインターネットの出発点とも言えるものです。それから27年経って、今度はICANN会議として「あのKICCに帰ってきた」わけです。今回その神戸に多数の参加者が集まり、懐かしい顔ぶれもたくさんありました。そして、昔集まった人だけではなく、新しい参加者もきちんと増えていた。それも新しい地域からの参加者が大変多く集まっていた。これは大変感慨深いものがありましたし、それを会場の人とも共有できたと思います。

また、神戸開催ということに加えて、今回日本で、それもこのタイミングでICANN会議開催できたことは、とても意義が大きいことだと考えます。まず、今年はインターネットの世界でいろいろと節目にあたる年で、Webの概念が生まれてから今年で30年、7月16日にはARPANETで最初のメッセージが流れてから50年ということでも式典があります。何よりも日本では平成から令和に変わる年で、.JPへの移行を行った1989年からちょうど30年にあたります。そして、マルチステークホルダーモデルというものも、ますます重要性を増してくるタイミングでもあります。2019年はICANNにも、マルチステークホルダーを構成するすべての人達にとっても非常に重要な年になり、この時に我々がICANN会議をホストできた意味はとて大きいと考えます。

2018年にはインターネット人口が初めて50%を超え、全人類が使える状況がもう手の届くところにきています。また、インターネットが産業に影響を与えない国はいまやありません。すなわち、全人類、全産業にインパクトを与え、AIなどの新しいテクノロジーとも組み合わせられ、すべての生活、すべての社会が大変大きく

変わり始める。そのスタートが2019年です。だからインターネットを巡ってGDPRのような新しい動きが、今までのステークホルダーとは違う形で、あるいは違った議論の形で生まれてきたわけです。これからはステークホルダーの多様性が大きく進み、マルチステークホルダーということの意味が大きな力を持つ、いや、必要性が増してきます。今までインターネットに関わらなかった産業や国・地域の関与も強まりますので、多様なステークホルダーが対話を重ね、慎重に前に進むというこのモデルが本当に大事になってきます。

みなさんご存じのように、ICANNの最も重要かつ大きな業績は、マルチステークホルダーであるということです。とはいえ、最初から上手くいっていたわけではなく、当時のステークホルダーが対話を重ね、対立もあるけれども相互理解に努め、慎重に前に進んできました。これはICANNだけでなく人類にとっても大きな業績で、我々が得た知見を今こそ活かしていく時です。そして、私は自信を持って言いますが、例えば政府と旧来の電話産業、そしてインターネットの関係性において、日本ほど上手くいっている国はありません。日本がベストプラクティスを持っていて、神戸会議はそれを世界に実際に見せられる、伝えられる絶好の機会になりました。マルチステークホルダーモデルの重要性がますます増していく中で、日本が持つプラクティスが役立つ機会はこれからも出てくるべきです。

最後に、今回はローカルホスト委員会という構成をとって進めてきたわけですが、企画から事務周り、資金調達などさまざまな面で多くの方々のご協力をいただき、みんなの力を合わせて成功に導いたというのは本当に良かったと思っています。委員会メンバーはもちろん、それ以外でも支えてくれた、理解してくれたたくさんの方々に、本当に心から感謝しています。参加者の顔を見ている満足度の高さが伝わってくる、とても上手くいった誇れる会合になったと思います。

## ICANN64 開催概要

### 日時

2019.3.9(土)～3.14(木)

### 会場

神戸ポートピアホテル /  
神戸国際会議場

### 主催

ICANN

### ICANN64 ローカルホスト委員会

- GMOインターネット株式会社
- 株式会社日本レジストリサービス
- 株式会社インターネットイニシアティブ

- 一般財団法人インターネット協会
- インターネットマルチフィード株式会社
- 株式会社インターリンク
- 株式会社NTTドコモ
- 一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター
- 一般社団法人テレコムサービス協会
- ビジネスリアート株式会社
- 京都情報大学院大学サイバー京都研究所
- コムラウデ株式会社
- 一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会
- 有限会社Takaエンタプライズ
- WIDEプロジェクト
- 西日本電信電話株式会社

- エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社

- KDDI株式会社協力

### 協力

- 総務省
- 一般財団法人神戸観光局神戸コンベンションビューロー
- 公益財団法人中内力コンベンション振興財団

### Webサイト

#### 英語

<https://icann64.jp/>  
<https://wiki.icann64.jp/FrontPage>

#### 日本語

<https://www.icann64.jp/>  
<https://wiki.icann64.jp/>